

平成 25 年度原木椎茸伏せ込み地診断結果について

平成 25 年 8 月 8 日

森林林業技術センター 嶋田雄一

谷崎ゆふ

【診断件数】

平成 25 年 7 月 3 日から 8 月 2 日までの延 7 日間、6 農林管内 30 か所を梅雨明け前後（今年の梅雨明けは 7 月 8 日）で診断しました。

なお、診断には県森林林業技術センターと日本きのこセンター（篠原誠治氏）があたり、県特振（安河内専務）、農山漁村振興課中山間地域振興係（宮原氏）も同行し、各農林事務所や JA 等の担当の方々の協力を得て実施しました。

農林名	件数	診断日程	伏せ込み地		
			人工	林内	裸地
福岡	2	7月22日	1	1	
朝倉	5	7月16日		5	
八幡	2	7月26日			2
飯塚	4	8月2日		1	3
筑後	11	7月4、19日		7	4
行橋	6	7月3日	3	1	2
合計	30	延7日間	4	15	11

1 今年の福岡県の気象概況

今年は、植菌期の1月から4月にかけては、気温はおおむね平年並みに推移し、降雨量は平年より多く、梅雨時期は局地的な降雨が多く、全般的には高温傾向と無降雨期間が長く続いた。梅雨時期の降雨量としては413mmと平年より多い年となりました。（黒木では、1月から4月は少雨、2月、3月は暖かく、1、4月は冷え、5月から少雨高温で梅雨も早く開けました。）



診断の様子（八女市星野村）

2 診断の内容

（1）クヌギ原木の伐採時期

昨年の10月下旬から12月上旬頃まで行われていましたが、養分の蓄積量や葉枯らし効果、植菌後の菌回りの状況を考えると例年ですと11月上旬から20日頃の3分から6分紅葉の頃が適期となります。伐採から玉切りまでの期間は、原木の大きさにもよりますが60日から90日の間で行ったほうが良好です。今年のお原木の入手状況は概ね自給6：立木買い4で、コナラも一部あるもののクヌギがほとんどでした。購入原木では伐採時期（紅葉の様子）などを確認され、原木の水分状況を見て植菌後の笠木補充や寒冷紗での庇陰や散水等の水分調整をお願いします。

（2）植菌後のほだ木の菌回り

7月上旬に行った県南では、降雨も少なく乾燥気味で菌回りもこれからということ

ころでした。県中央及び県北でもその傾向で、裸地伏せ、林内伏せとも例年に比べ遅れており「堅ほだ」気味ではありませんが、順調に推移しているものと思われます。

なお、原木の水抜けも過乾燥になると材の外側だけが乾き、芯材の水抜けが悪くなり「上ほだ」となりやすいため、注意する必要があります。一時的な降雨だけ



材の外側の菌回りと芯材の水抜け状況

では原木表面が濡れるだけで伏せ込み内部までは浸透しないため、降雨後に散水することで、それが呼び水となり原木内部への水分補給効果が上がります。

また、10日以上雨が降らない状態が続けば、夕方に十分散水されることをお勧めします。

(3) 害菌・害虫の発生状況

本年は、原木の伐採の時期か植菌時期に直射日光の影響からかシトネタケ、クロコブタケ、キクイムシ等の発生が一部に見られましたが、例年より少ない状況です。

また、葉枯らしが効いていない生木状態や風通しが悪く湿気の多い林内、棒積み（仮伏せ状態のまま）などの過密な伏せ込み地では蒸れ過ぎて、ゴムタケ、トリコデルマ系の発生が見られました。

害虫は、キクイムシの他、ハラアカコブカミキリの産卵痕が見られ、原木に耳を澄ますと「ガシガシ」と聞こえていましたが、目立つほどではありませんでした。

3 今後の対応

今年の菌回りは遅れ気味ですが、梅雨明けから夏、秋の管理では、菌回りの順調に進んでいるほだ木については、過湿、高温（材表面40℃以上）や過乾燥による菌の死滅等に気をつけて見廻りましょう。裸地伏せ込み地では、乾燥気味であるので南西側の下草刈りは控え、北東側のみとし通風を確保し、西日等の当たるところでは笠木補充と張り出しにより直射を防ぎましょう。林内伏せ込み地では、湿度もとれ菌回りも順調ですが、高温・加湿が害菌発生の要因になりますので、木口の菌糸紋、ゴムタケの発生状況を見て、水抜けの悪い生木の状態のものや、過密なほだ木は芯水が抜けるように、天地返しや組み直しをして通風を確保しましょう。



茶栽培用ネットの廃材利用でほだ木への泥はね防止に一役（八女市星野村）

4 その他

乾しいたけの市場動向としては、中葉系が需要大で小葉どんこ（業者が在庫を抱えている）より香信系が高値で、10月頃の中温菌は柄が長く色付きが悪い傾向のため採取しない。また、生状態で6cm位での採取（秋子）が適当とのことです。（台風の季節ですが、安全作業に心掛け、伏せ込み地等の見廻りをお願いします）。